

# 第 61 回 KTSM 実技セミナー in 熊本

## KTBC の理解と展開&基礎コース 開催報告

開催日時：平成 30 年 3 月 3 日（土）10：00～17：00

開催場所：医療法人桜十字 桜十字病院 リハビリテーション室

主催：桜十字病院

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

後援：株式会社クリニコ・株式会社大塚製薬工場

開催目的：「口から食べる」支援のために必要な包括的スキルとしての、KTBC ツールの理解、ベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的な食事介助、認知機能が低下している場合の食事介助などの支援技術について、知識・技術の習得を目指し、演習を主体とした相互実習によるスキルアップを図る。



### 【講師・アドバイザー】（敬称略）

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市 美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長 摂食・嚥下障害認定看護師 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
建山 幸	桜十字病院	看護師 KTSM 実技認定者
井野 美穂子	桜十字病院	看護師 KTSM 実技認定者
山下 裕史	熊本リハビリテーション病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
平野 宏一	熊本リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者
下田 加奈	訪問看護ステーション Cruto	看護師 KTSM 実技認定者
榎本 淳子	玉名市社会福祉協議会	看護師、社会福祉士 KTSM 実技認定者

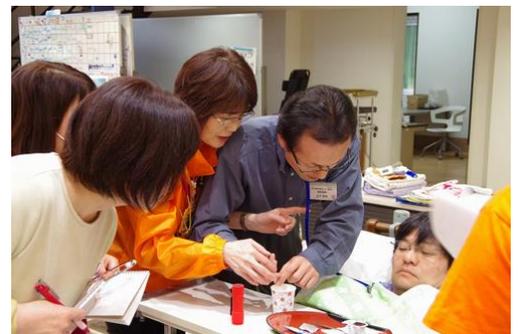
安部 幸 社会医療法人 帰巖会  
みえ病院

摂食・嚥下障害認定看護師  
KTSM 実技認定者

田平 佳苗 国立病院機構  
熊本医療センター

摂食・嚥下障害認定看護師  
KTSM 実技認定者

<セミナーの様子>



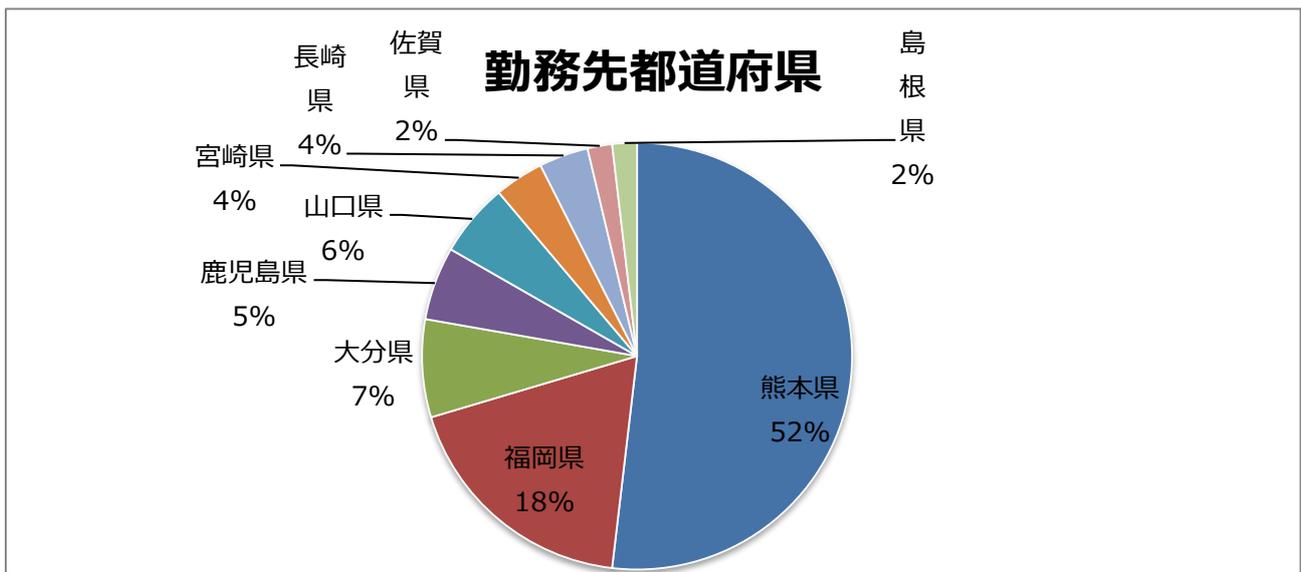
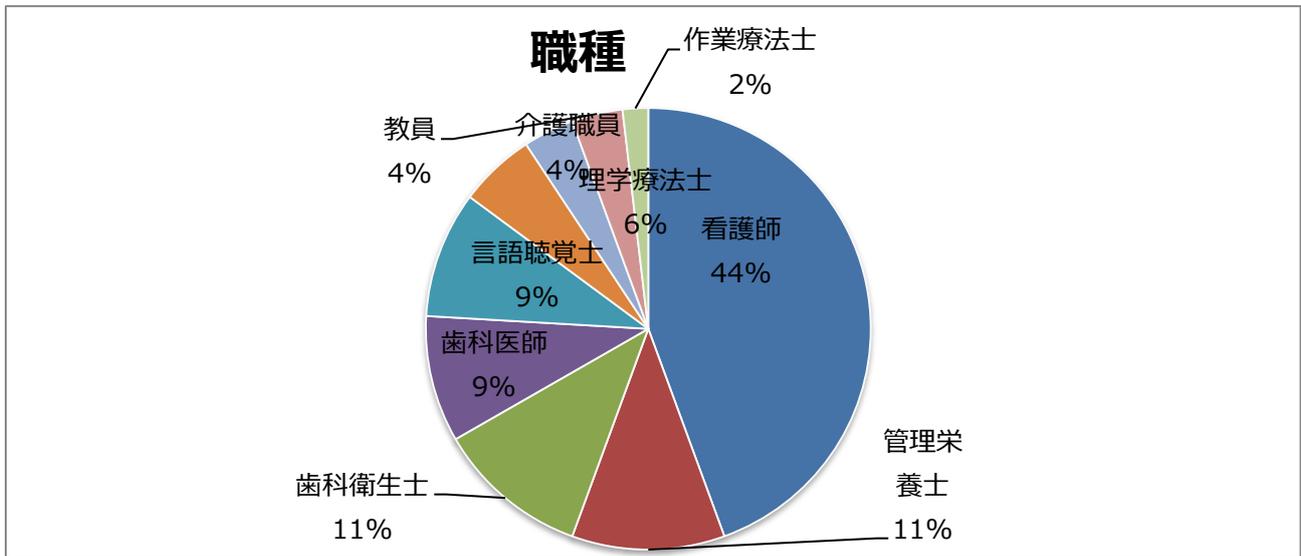
NPO法人 口から食べる幸せを守る会  
KTSM 第61回実技セミナー in 熊本

平成30年3月3日 桜十字病院

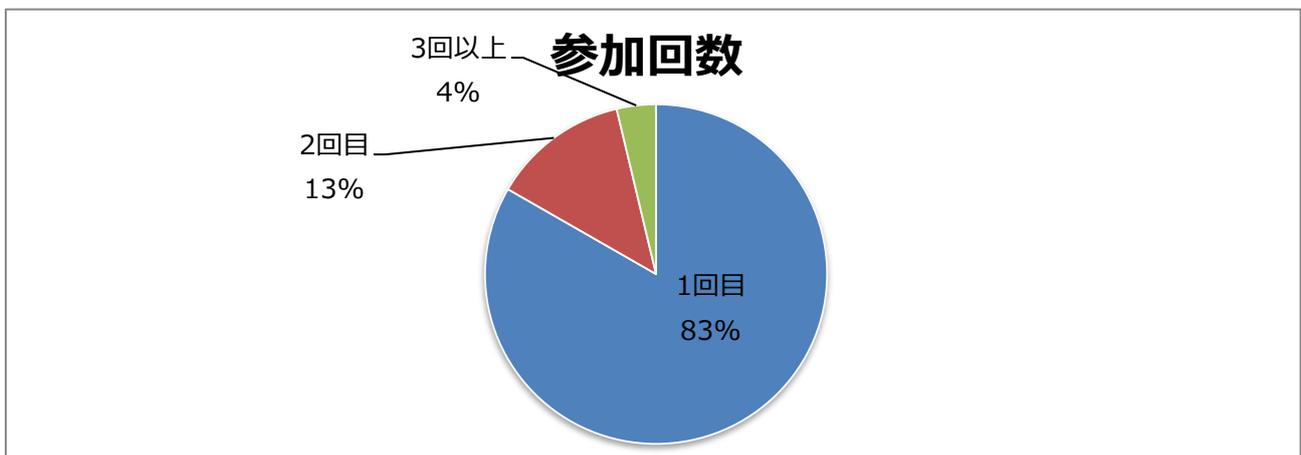


## アンケート集計結果（回答数：54名，回収率：98%）

### Q1.参加者の職種と勤務先の都道府県



### Q2.KTSM 実技セミナーへの参加回数と参加理由



## ◇参加理由について

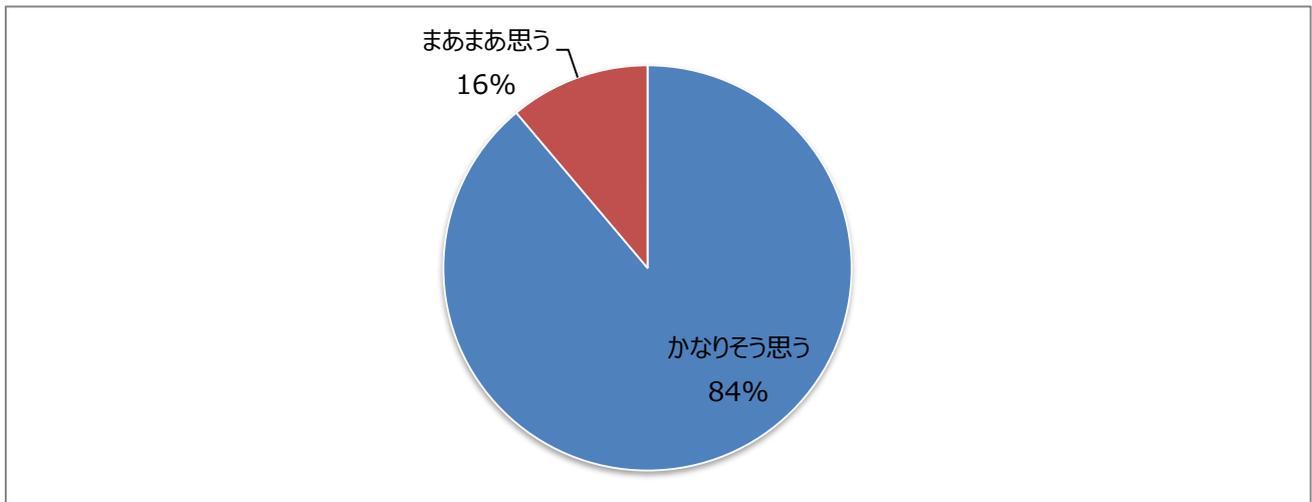
### (1回目)

- 実技を受けながら学べる機会はほとんどなく、日々臨床の中で悩んでいる内容を解決する機会になればと思い、参加しました
- 当院でも口腔ケア実施はしているが、急性期病棟の為、絶飲食指示、点滴のみの患者様が多く、最期まで口から食べる事が出来る幸せを守る為にセミナー参加を希望しました。
- 高齢化が進む中、食べることを支えることは回復を促進させる重要なケアであり、多くのスタッフの知識・技術の向上が必要だと感じている。そのためには自らが学ぶことが第一歩であると思い、今回のセミナーに参加させて頂いた。
- 病院で経口維持加算を取る事になり、摂食嚥下に携わる回数が増えて来て、絶対に必要な知識・技術だと考えたから。また、今までは見学だけで、実際に受講したいと考えたため。
- 当院で口腔ケアを行っており、その時胃瘻・経鼻の方のケアを主に行っているため、少しでも口から食べさせてあげたいと思った。食事介助のアドバイスも周りの方に少しでも提供したいので、その為の勉強と思い参加しました。
- 当院で機能的口腔ケアを行っていましたが、施設に介入してやはり食べさせる事についての質問が多くあり、どうやったら安全に口から食べさせる事が出来るか学びたかった為。
- 職場で介助を行う機会は少ないが、高齢化が進んでいる中で、今後更に介助をしなければいけないため、スキルを少しでも知りたかった。
- 当院で、摂食機能療法チームで KT バランスチャートの活用が始まり、学習し、一員として評価が出来るようになる為と、食事介助やポジショニングの勉強のために参加しました。
- 昨年より歯科衛生士として働き始めて、往診担当になりました。往診で行う口腔ケアや唾液腺マッサージ、口腔周囲筋のマッサージなど日々行う中で小山先生がプロフェッショナルに出演された時の動画を見て改めて自分の役割が患者さまの幸せに少しでも繋がると思え、もっと知識と技術を増やしたいと感じたため。
- NST 委員として栄養に携わっているが、プランに悩むこともあり、また、プラン通りに運ばないこともある。研修により指導を受け、スキルアップにつなげたい。学んだ事を今後の場に活かしたいため。
- 当院でも誤嚥性肺炎で入院される方が多く、どのようにアプローチして良いか迷いつつ行っています。少しでも技術やアセスメントを出来る事で、食べる機能をあげる事が出来ればと思い、参加しました。
- KT バランスチャートを使用し、適したアプローチをしたいため。患者さんに負担なく口から食べて頂くため。管理栄養士として、どんなアプローチが出来るかを考えたいと思ったため。
- 病院から住宅型老人ホームへ来られた方で、前医で経口摂取不可と診断されてから水 1 滴も飲んでいない、口も渴いて声が出にくいという方がおり、口から食べたいという強い希望があった。自分が力になれる事はないかと考え、プロフェッショナルも見ていたのでセミナー参加を希望しました。
- 日頃、病院で行われている間違ったことを改善できるように実技等を学んでいきたいと思ったため。
- 経口摂取を希望されていても、介助がうまく出来ず、摂取時間が長くなったり、摂取量が減って体重が減少して胃瘻造設になってしまったり IVH になる患者さんがおられ、どうにかして経口摂取してもらうにはどうしたら良いのか…と思い、参加しました。
- 以前、看護協会のセミナーで小山先生の研修を受け、これまでの食事介助がいかにおそまつであったか反省しました。ぜひ、実技セミナーを受け、安全で美味しく食べてもらうための実技を身につけたいと思い、参加させて頂きました。

(2回以上)

- 一度、大分でも参加し学ばせて頂いたことを病院でも行ってはいますが、短時間では学びきれず、食事介助の際に形が崩れることもあるため、参加しました。
- 食事介助の実技を身につけたかった。
- KT バランスチャートを今後使用していきたいので学びにきた。
- 私が勤めている病院は80～90歳代の患者さまが多く、その中でも低栄養・サルコペニアで「もう年だから…」と禁食にして PPN 管理をしている方が多いです。また、口から食べてもらいたいと願っても、私のスキル不足により、経口摂取が十分に出来ないと日々感じています。スキルを学ぶことで患者さまに美味しく口から食べてもらいたいと思い、参加させて頂きました。
- 前回のセミナーに参加して、ポジショニングの重要性や介助法について学ばせて頂き、今まで間違った介助法を行っていたことに気付かされました。よりよく学び知識を深めたく今回のセミナーに参加しました。
- 摂食嚥下に関する知識・技術の習得をし、臨床で患者さんに提供していきたいため。
- 介助スキルを高める。KTBC の理解を深める。
- 不適切な介助・評価で本来の力を十分に引き出せていないのではないかとこの研修に参加して痛感出来るため、毎年来ています。

### Q3.スキルアップにつながったと思いますか？その理由は？

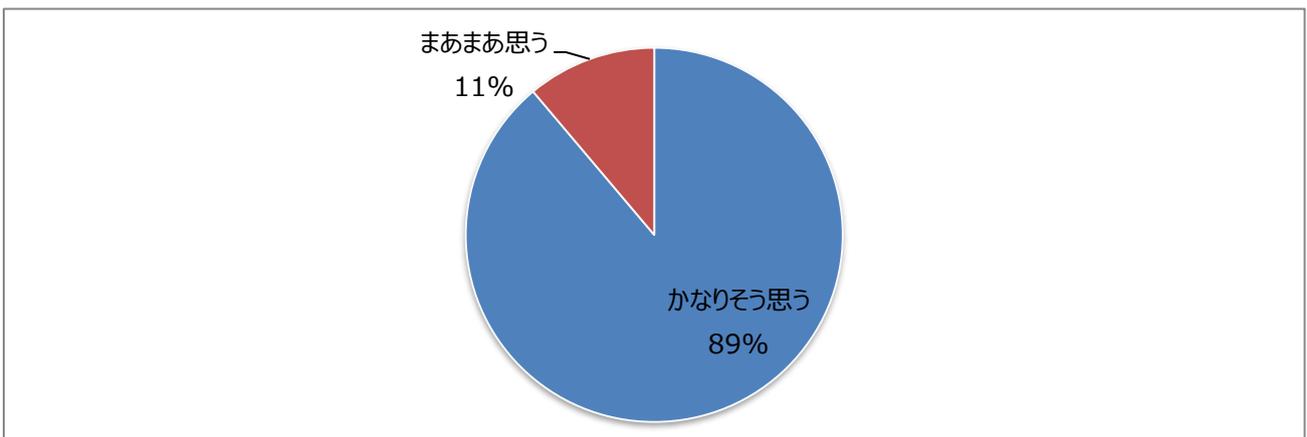


#### ◇理由について

- スプーンの持つて行くタイミングが難しく感じました。今まで行っていた介助を見直す機会になり良かったです。
- 口を開けてくれない人、口腔内にためこんで飲み込んでくれない人、食事介助の時に悩んでいた事が勉強出来たと思いました。
- これまでのやり方ではなく、見せ方の工夫をもっとしていきたいと思った。
- 今までの食事介助の仕方がどれだけ間違っていたのか、身をもって感じる事ができて良かった。
- 見学だけではやはり、自己流になってしまっており、今回受講出来た事で正しい知識・技術を学ぶ事が出来た。
- 患者側の視線を体験でき、しっかりと介助される側の状態を考えなければならぬと感じました。
- 自分と患者を照らし合わせて自分の食事のように介助が出来ていないことを改めて痛感した。

- 食事の姿勢や介助などすぐに出来る事があったので、とても良かった。分からない事はこれからどんどん学んでいきたい。
- 全くゼロからの技術だったのでとてもためになりました。患者役が体験出来なかったので、患者役もしたかったです。教えて頂いても全然上手に介助出来ていなかったで、練習していきたいと思います。
- 基本的なところに大事な事が多いと思い知らされました。さらに勉強してスキルアップしたいと思います。
- バランスチャートの捉え方の違い（間違い）が少しずつ分かってきたような気がする。
- ポジショニングは PT がするものと考えていたので、大変勉強になった。
- スキルアップにつながったと思いますが、まだまだ医学的な知識が不足している事を思い知りました。
- 実際に食事姿勢（不良・安易）を行ってみて、姿勢はとても大切な事だと改めて感じた。
- 食事介助時の介助者の姿勢・方法などかなり反省しないといけない点があった。
- なんとなくという感じのアドバイスが、自信を持ってアドバイスできるようになったと思います。
- 対象者の気持ちになることで今後の接し方を変えることが出来る。
- 演習を経験することで今まで良くない食事介助をやっていた事を感じました。今日の事を思いながら仕事したいと思います。
- リクライニング 30°・45°・60°の食事介助やポジショニングなど患者に合わせた介助方法を学ぶことが出来ました。貴重な時間を過ごすことができ、小山先生をはじめ、指導者の方々に感謝しています。ありがとうございました。
- スプーン操作やポジショニング、食事介助方法など丁寧に指導して頂き、根拠を持って理解できました。実際に患者体験をして、いかに自分のスキルが未熟であったかと思いました。スキル一つで患者さんの経口摂取を不良にしていたと思いました。
- アセスメントの必要性がとてもよく分かりました。具体的にプラン設定することがとても重要であること、まだまだ難しいですがこれからも勉強していきたいと思います
- 肘の高さの少しの違い、介助される人の触れ方で食べにくい・食べさせにくいということを改めて学ばせて頂きました。

**Q4.今後の実践場面で活用できますか。どんな場面で活用出来ますか。または、活用できない理由について。**



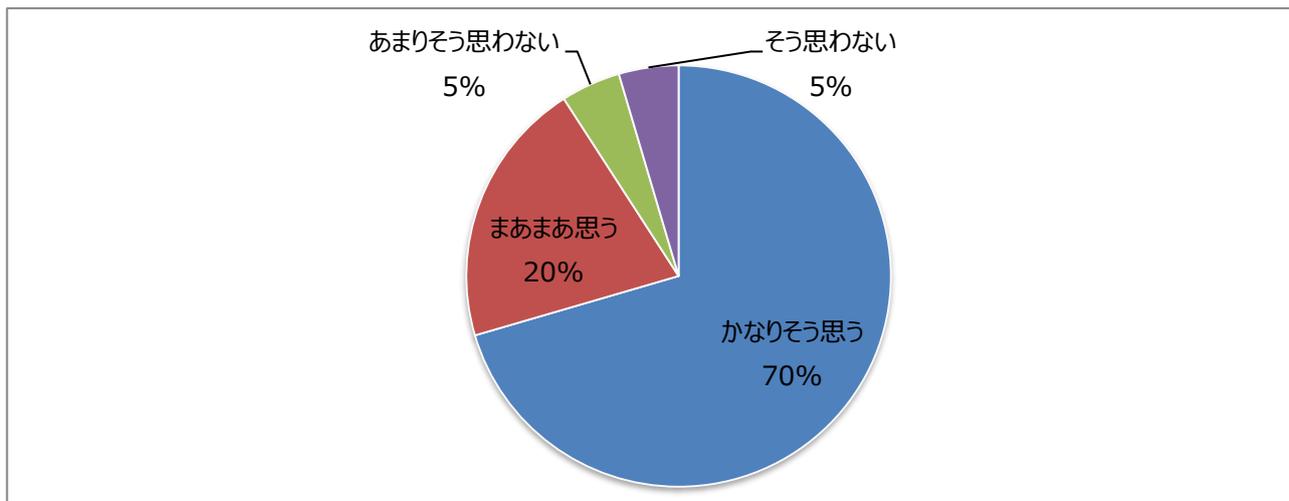
◇ (理由について)

- 嚥下困難な患者さんはまず KTBC を使って評価して、どこにアプローチするかを検討していく必要があると分かりました。
- 評価から実際の食事支援場面の全てにおいて活用できる。もう一度、自己の中で整理し実践できるようにしてい

たい。

- アセスメントの方法のどうしたら食べることができるかの視点を大切にして、一つ一つアセスメントしていきたい。間違っただ食事介助では患者の持っている力を引き出すことが出来ないことが分かったので、しないといけないことを確実に行う必要があると改めて思いました。
- 新しく、入院患者が来られた時、食事に観察に行き、自分で食事介助をする回数が増えてきているため、今後そのような場面で役立てたい。
- 関わるスタッフの意識が低いと、あまり活用できると思わない。
- ポジショニング（口腔ケア時）も同じなので使いたい。施設の方に食事介助のアドバイスが少しはできるかなと思います。
- アセスメント：早期経口摂取できるようなアプローチをしたい。 ポジショニング：細やかな配慮をしていきたい。角度・位置など。 食事介助スキル：自分の食事のような食事介助
- 往診で嚥下について、尋ねられる場面もとても増えてきたし、口のプロとしてこちら側から提案をしていきたい。
- 食事場面、離床時の体位調整、夜間などの体位調整にもつながる。一日を通してケアすることが患者の全身状態向上につながるから。
- ミールラウンド時、見えていなかったところが見えそうです。
- KT バランスチャートは一目で分かるので、多職種での共通の判断ツールとして使いやすいと思った。
- 病院スタッフへ、今回学んだポジショニング・食事介助技術を伝えていき、肺炎患者が少なくなれば良いと思う。
- 訪問している施設にも胃瘻の方は 6～7 割おられますし、家族の希望はほとんど、何か食べられないかということなので活用できます。嚥下評価やケアにまず姿勢保持を活用していきます。
- 実際の食事介助時に、今日学んだ視点で患者さんの観察を行おうと思います。
- 食事摂取量が少ない方が多いため、食事姿勢や環境など再度見直していきたい。
- 実際の患者さんを KTBC で評価してみたい。また、スタッフ教育にも使っていきたい。
- 病院から在宅へ戻ってきて食事が取りにくくなった場合。在宅で誰にも相談できず、食事に困っている患者さまの場合。有料老人ホームで専門家のいないところで食事に困っている場合。
- 病院で摂食嚥下チームを立ち上げようとしているところなので、他職種にも伝えていきたい。
- 毎日の食事介助に活用したいと思います。
- スクリーニング、ポジショニング、スプーンの挿し入れ方。
- 片麻痺のある患者のポジショニング、ズレない姿勢、強みを生かした食事介助など学ぶことができ、実践で活用していきたいと思いました。とても緊張しましたが、よい刺激になりました。
- 介護職の私には KT バランスチャートの展開はとても難しかった。アセスメントをする習慣が日頃からないので、発表をして下さいと言われたらどうしようかと思った。もっと介護職でも安心して受けられるセミナーだと良いと思った。
- 普段からポジショニング等しながら、食べられない要因を考えていきたいと思いました。
- ポジショニングの行い方やポイントを知って、衝撃的だった。
- ポジショニング、スプーン操作など食事場面で活用できると思いました。
- 車椅子での介助が多いので、ポジショニングを学べて良かったと思います。正しい姿勢とは楽な姿勢であることも再度学びました。ポジショニングを正しく行えば、患者さまの痛みをおさえることが出来、食事に集中することが出来ると思いました。
- 実技を当院でも行う際に、どういう風にしていけばより深く当事者意識をもってもらえるか勉強になりました。

Q5.本日の実技セミナーのような研修を自分の病院・施設等で自ら企画して行おうと思いますか。その理由について。



- まずは病棟でやり、その後病院全体に広げていきたいです。
- 院内での研修を行っていただけたらと思う。
- 現在の教育では食事介助の演習が難しく、実技指導者からの指導があるとよりスキルアップができる。
- 院長と相談しないと分からないが、職員一同が勉強すべき講演でした。
- 私たちの技術不足・知識不足を思い知らされました。ただ、元気にしたいという気持ちは常にあります。更にスキルアップをしていきたいです当院で勉強会をしっかりとやりたいと思います。
- 様々な職種の方が本セミナーでの考え方、スキルを持てるようになれば多くの方が食事を楽しめるようになると思います。
- KT バランスチャートの評価をもう少し勉強したいと思います。また勉強する機会があれば参加したいと思います。そして病院でも積極的に取り組みたいと思います。
- 毎日行うポジショニングと食事介助をしたい。
- 施設に往診に行くことが多いので、そこで嚥下や食事介助についてなどを伝えられたらかなり上手く食べられる人が増えると思う。
- まだ全く出来ていないので、自分での企画は難しいですが、いつか出来ればいいなと思います。
- 知識や技術をさらに向上させて伝えられるレベルになったら行きたいと思います。
- ポジショニングの研修会を開こうと思います。
- 職場の知識・技術向上のためには行きたいと思う。
- まだ企画して実施できるレベルに自分がいないので、まずはしっかり勉強してから。
- NST 他、栄養にかかわるスタッフで動いていると感じている。他スタッフの意識向上につながれば病院全体の向上にもつながる。
- まずは口腔ケア・食事介助にしてもアセスメント・技術の必要性を伝達講習を行う。4～5月には講師を招いて行いたいと企画しています。
- 病院全体で食事を食べるために大切な介助スキルを身につけていきたい。
- 看護職や介護職に対して、職員研修で今日学んだことを話出来ればと思う。
- できれば参加したいと思う。自分のスキルアップや、地域に輪を広げられれば…

- 当院リ八部主催の他施設向けの勉強会等を利用したいと思っております。
- 一緒に来たメンバーで話し合ってきたらいいと思う。ポジショニングなどは個々にアドバイスが出来るといいが…
- まずは私が受け持つ患者を KTBC 評価して、それを基にスタッフへ説明する。姿勢調整と介助方法について、研修会を実施する。
- 共通理解することでたくさんの人を助けることが出来るのでやってみたいが、まだ勉強不足である。
- 私以外のスタッフにも習得してほしい。誤った食事介助をしているので、皆、同じような介助が出来るようになりたい。本人の希望をかなえたいと思います。
- 自分の施設で出来なくても、研修への参加を促していきたい。そこから口から食べることを意識して職員が全員に底上げの取り組みが必要だと思いました。
- 食事介助を充実させたい思いは皆あると思います。底上げするためにも地域でセミナーを実現していければと感じています。
- ベッド上、車椅子での食事摂取時のポジショニングを自施設で行いたいと思います。
- 本自身に付けた実技を病院内で報告し、実施し、伝えていきたいと思いました。すればするほど成果が出て、やる気になることを伝えたいです。
- 来年、新しく新病院ができた際、先生にセミナーを開催して頂けたらと思いました。実技（食事介助）の全体の（自分も含め）レベルアップになれば助かる患者さまも増えると思います。

#### Q6.今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容について

- 今後も今回のような内容で行って頂ければ、また参加させて頂きたいと思います。参加させて頂きありがとうございます。
- 現場のNs などからはやはり HOW TO のニーズが高い。口腔ケア、食事支援、日常生活ケア場面のアセスメントとケア介入の実際について、まとめていくためのアドバイスが頂けたらと思う。
- 困難事例への対応
- 本当に勉強不足。食事介助の仕方とポジショニングが分かった。頭の中が今パニックです。
- まずは今日のことをマスターしてからだと思います。DVD で勉強します。介助を受ける側を体験して初めて、先生のすごさを感じました。
- スタッフへのスキル伝達方法。どのように企画して行っているのか、具体的に知りたい。
- 具体的に、こういう場合はこうだ、どこがどうだからどうしたら良い、など詳しく知りたい。
- まだ全く出来ていないので、自分での企画は難しいですが、いつか出来ればいいなと思います。
- 長年施設に入居されている方が徐々に食べれなくなってきた場合などの症例を聞いてみたいです。
- 実際の患者さんに対する実習。
- まだまだ基本が出来ていない。できれば今日の内容をまた受講したい。
- 脳血管疾患以外の COPD、認知症などの症例別のケースを学びたいと思います。
- 覚醒不良の患者の食事介助技術について。
- 具体的プランの設定を学んでいきたいです。
- 認知症の拒食

**全国に、口から食べる幸せの輪がひろがりますように！**



**御参加いただき、ありがとうございました。**